



なきごえ



1991

10



松川 昭夫

私が動物を意識するようになったのは、小学生の低学年の頃である。愛玩用と言うものではなくて、日常生活の中での動物との付き合いであった。二上山の麓へ、家族共々疎開

することになり、食料の確保が、日常生活の中で重要な位置を占めていた頃のことである。

放課後は、百姓のまねごとをしていた祖父の手伝いをするかわら、家畜の世話をするのが主な日課であった。卵を得るための鶏も20〜30羽飼っていて、周りの「ハコベ」と言う草を取り、糠と貝殻をつぶした細片とを混ぜて与えた。貝殻のない時は、少量の石灰を混ぜてやる。そうすると、殻の硬い立派な卵を産む。鶏もある時期に「スイレイ」と言って（その頃は、大人達はそのように呼んでいた）特別に作られた木の箱の中で、長い間卵の上に座り温める。やがて、その下から「ピヨピヨ」とヒヨコが、産声をあげる。子供心に、なんとも言えない感動を覚えたものである。

この頃の農家の大半は、自宅の門際に牛小屋があり、農耕用の牛を飼っていた。牛にも立派な牛、貧弱な牛がいて、見るからに毛の艶が良く、大きい牛「コッテ牛」を所有している家の子供は、なんとなく、鼻高々で優越感を持っていた。田植の時には、牛と「マグワ」とを操って、子供でも田を鋤く。私も、よその牛を借りて来て、祖父の田んぼを鋤いたことがある。「シッコイチョイ」と言って、手綱を牛の腹へピシピシ当てると前へ進む。「オーオー」と言って、手綱を引くと止まる。左へ引くと左へ廻る。牛は非常に従順で、この合図はどの牛にも通用する共通の合図であった。今のように、耕運機や農耕用の自動車が無かったので、牛、牛車、馬力(馬車)が万能の頃である。

田植の時の田んぼへの水入れも私の仕事である。山の上の池の樋を抜いて、水の流れが順次水路を伝い自分の田んぼへ到達するまで、流れに沿って歩く、途中で他所へ水を逃がさないためである。流路は見える所ばかりでなく、時には、土手の中へ入る。土

なきごえ10月号もくじ

動物と私	2
ブラッサグェノンの赤ちゃん誕生	3
動物とのめぐりあい	4・5
キリンを飼育して	6・7
動物園グラフ・動物園日記	8・9
公園・花だより	10
動物園ニュース	11

手の中腹に水路の流れを確かめる横穴があり、そこに入って流れを確かめる。この横穴は夏でも冷やりとして心地良い。この穴の中は蛇にも居心地がよいらしい。時には涼みに来ていて、目の前の「トグロ」に冷や汗をかくこともしばしばであった。

マムシ、ヒバカリ(田舎で、そう呼んでいた茶色で小型の毒蛇)、サトマリ(多分青大将のこ)など、存分に出会った。あぜ道を横断して、頭と尾は草の中で、胴体だけが道に出ている。直径5cm、長さ2.5m程度の大サトマリである。蛇を跨いで、金縛りに合い冷汗をかいている夢を今でも見る。今まであのように大きい蛇は、動物園以外で見たことがない。それとも自分が小さかったから、そう感じたのであろうか。

田舎の便所は、屋外にあった。夜、小便に行き、手水鉢の所でトグロを巻いているヒバカリに何度か出合い、手を洗わずに逃げて来たこと。屋根瓦の下に作られた雀の巣の中へ手を突込み、雀の卵を取りに来ていた蛇をつかんだ感触、池で泳いでいて、泳いで来た蛇とはち合せしてうろたえたこと。蛇に関する思い出は比較的豊富である。これは恐怖感をもたらす強烈な印象によるものであろう。

いずれにしても、今の子供に比較して、動物にまつわる思い出は多いと思う。

今でも、日常生活において、犬、猫や鳥などを見ることは多い、しかし、牛や馬を見る機会は希れであろう。10数年前のことであるが、娘が真顔で、「お父さん、犬と馬とどちらが大きいの」と言った。その時の驚いたこと。よく考えて見ると、テレビや絵本は見ているが、実物の馬や牛を見たことがなければ、実感として真にもっともな質問である。その翌週、万難を排して動物園へ連れて行った。馬はこれ、牛はこれ、娘も満足気であった。ささやかながら親の役目を少し果たしたような気分になったことを思い出す。

世界各地には、色々な動物が沢山住んでいる。花の万博は「自然と人間の共生」がテーマであったが、動物園は、人間以外の動物と人間との共生を学ぶ場として、また、情操教育の場として、非常に重要な施設である。

年間約200万人の来園者、中でも多くの子供達の夢に応えるためにも、今後、意を新たに、天王寺動物園の整備に取り組みたいと考えている。

(大阪市建設局花と緑の推進本部長)

表紙の写真説明

“イヌワシ”

(Aguila Chrysaetos)

アジアやヨーロッパ、北アメリカに住む大形の猛禽で、翼を広げると2mを超えるものもいます。環境破壊のため生息地が少なくなり、各地で激減しています。

(撮影：長瀬 健二郎)



“ブラッサグェノンの赤ちゃん誕生”

白い顎ヒゲが特徴のブラッサグェノンが7月31日にメスの赤ちゃんを生みました。ブラッサグェノンの名はアフリカ探険に功績のあったイタリアの探険家の名を、グェノンとはフランス語で“しかめた顔つき”という名があります。

(撮影：吉本 昌俊)

子供の頃から今まで、さまざまな動物と、数えきれないほどのめぐりあいがありました。

虫とり・魚とりに明け暮れた少年時代をふり返ってみても、試験場で仕事をしている現在も、まわりにはいつも動物がいました。

そう、今も秋空の下、隣から窓越しに牛が、ワープロを打っている僕を何やら不思議そうな顔つきでながめています。

これから、不器用で、オッチョコチョイの僕が体験したこと、そして、動物達を通して考えたことについて少しお話してみたいと思います。

まずは、学生時代の話から。

北海道の大学で、獣医になる勉強をすることにしました。北海道というと牛や馬といった大動物が中心です。入学してすぐに牛舎での仕事が始まりましたが、その頃の僕の知識はといえば、「ホルスタインという牛は、どの牛も、年がら年中乳をだしている」的なものでした。



人工哺育中のフタコブラクダと(天王寺動物園にて)



北海道の牧場にて、牛という動物を初めて認識したのがこの頃

見様見真似で仕事をしていましたが、「コレではイカン!」と思い、夏休みに道東の酪農家で実習をすることにしました。牛に蹴られたり、サイロの中

で草に埋もれ、また獣医さんの往診について回ったり、夕方になると牧草畑にやって来る鹿の群れを見るのを楽しみながら1ヶ月が過ぎました。「いろいろしんどかったけど、牛という動物はのんびりしていて、なかなかおもしろいやつだなあ」というのが感想でした。

その後、もちまへの好奇心から今度は動物園という世界も覗いてみたくなり、まず最初に天王寺動物園にお世話になりました。動物病院に入院している動物達の世話をするのが仕事の一つだったのですが、見たこともない動物がいたりで、エサに何をやればよいのかを覚えるのに頭を悩ませました。もともと、記憶力はあまりよくない方なので、動物に片っ端から名前(愛称)をつけて関連づけたり、動物に直接「コレハ食ベルカ?」と聞いたりしながらやっていました。

一度、入院中のタイワンザル(「三吉」という名前をつけていました)に落とした軍手を柵越しに拾われ、返してもらえないことがありました。僕が少し離れると「三吉」は軍手をヒ〜ラリ、ヒ〜ラリ見せるのですが、近づくときとササッと抱きかかえ、しらん顔をするとということ三日間位やってくれました。



オランウータンの赤ん坊と(円山動物園にて)

「いやはや、これはまいった。」というのが実感でした。

その後、数カ所の動物園や水族館にお世話になりましたが、それぞれにいろいろな動物や魚達に出会えた楽しい思い出が残っています。

学生時代にはこんなこともありました。

たしか3年生のある冬の夜だったと思います。僕と友人のI君は隣街の飲み屋でのコンパの後、約5キロの道のりを歩いて大学まで帰ってきました。あたり一面銀世界、その夜も雪はしんと降っていました。二人ともかなりヨッパラっており、大声で歌ったり、将来について話している内に寮の近くまで来たのですが、I君はその日はちょうど同好会の宿直当番の日でした。気のいいI君は僕を寮の玄関まで送ってくれましたが、その後、同好会の宿直室

まで行く途中、酒で気分が良かったのと、少し疲れたので、雪の上にゴロリと横になり、そのまま眠ってしまったそうです。北海道での厳冬期のこと、冷凍人間になるのに、長時間を要しません。そんな彼は、何か暖かいものが自分の顔をナメるのに目が覚めたそうです。ぼんやりした目に、写ったものは彼の同好会で飼っていた犬でした。犬はI君の目が覚めたのを見るや、前になり後ろになりながら、宿直室まで連れて行ってくれたそうです。

いつもはロープで繋がれている犬がどうしてそれをはずしたか?、どうしてI君が眠っているのがわかったか?、I君も不思議だと言っていました。そんなI君、今は旭川で大動物を診ています。

ところで、僕は今、試験場で牛の放牧についての試験と、試験場にいる動物達の診療をしています。

でも、腕の方はというと、ヤブにもなれないタケノコなので、なかなかうまくいきません。それでも「おーい!」とお声がかかるものですから、こっそり教科書やノート、友達の電話番号を懐に出かけます。



チゴハヤブサを肩にとまらせ、ちょっとした鷹匠気分(円山動物園にて)

一通り自分の考えた処置をして戻りますが、夜中にふと不安になり、動物を覗きにいったことも一度や二度ではありません。また、起立不能になった牛を診た夜、元気に立っている牛の夢を見たなんてことも幾度もあります。まあこんな調子ですから、僕の治療と「時の経過」という治療では、後者に軍配が上がることも多いのです。

(○月○日)「放牧試験に使っている牛がどうしても捕獲できないのでなんとかして……」との連絡。動物園で教えてもらった吹き矢による麻酔をすることに。ブッシュマンよろしくさっそうと出かけ、牛に向かって撃ったまではよかったけれど、矢は牛の横にあった立木にみごと命中。「いや〜、コレがほんとのキノドク(木の毒)?ははははは!!」で

何とかその場をしのぐことに。

(×月×日)放牧地での試験中。夜の12時頃、機械が正常に動いているかを見に行った時。いるはずの牛がない。「ややっ!脱柵・逃走?」真っ暗な放牧地を懐中電灯一つ持ち、「オーイ!オーイ!」ときまよえど、牛からの返事は、なしのつぶて。

(△月△日)昼頃、電話。「朝から陣痛が来ているんだけど、子がでてこなくて……」行ってみると、産道が狭く、薬を使ってもダメ。こうなれば「テイオーセックイ」という言葉が浮かぶけど、そんなの学生時代、先生がやっているのを見たなあという程度。「麻酔は?切る位置は?」と、にわか勉強。後は度胸のみ。ところが、手術が終わる頃、背中か



現在では研究だけではなく、牛の診療も大事な仕事のひとつ。ら「あの〜、もう一頭、子が出てこない牛がいるんだけど……」の声。結局、その牛も双子が入っており、それらがお腹の中で絡まりあっていたため手術することに。1日2頭では、さすがに腰・腕ともにガクガク。

こんな調子で毎日やっていますが、助かる動物もいれば、死んでゆく動物、試験を終えて廃用になる動物にも、もちろん多く出会います。

動物相手に仕事をしている日々の中で、思うことは、「人間の心が本当に動物の方を向いていなければ、決して良い結果が得られないのではないか」ということです。もの言えぬ動物達は、すべて人間の心の中を敏感に感じとっているのではないのでしょうか。時として、動物の反応は、自分の心の中の鏡となって表れているように思います。

これからも、いろいろな動物に出会いながら僕自身をもっと、もっと成長させてゆきたいと思っています。

(農林水産省:草地試験場)

キリンを飼育して

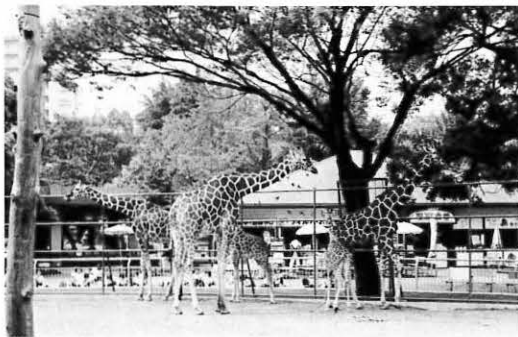
なきごえ27(10),1991

昨年11月4日と本年2月11日に当園において6年ぶりにアミメキリンの出産がありました。父親はナガヤ(8才)母親はハルミ(7才)そしてサキコ(13才)です。

私がアミメキリンの担当になったのは1986年の12月からでした。サキコは、もう既に発情も有り、成獣でしたが、ナガヤ、ハルミは、まだまだ、これからと言う感じで、よくサキコにあまえていました。サキコも、母性本能をくすぐられたのか、2頭のめんどろをよく見ていたようです。丁度、天王寺動物園のアミメキリンも世代交代の時期で、以前にいたオスのかわりに、ナガヤが、そして、又、ハルミが入園してきたわけですが、前担当者の方がうまく世代交代を行ってくれたので、私としてもとても担当として関っていきやすかったし、キリンの性格もおとなしく、のんびりしていたことと、以前より少しづつキリンの仕事を手伝っていたこともあって少しは、気が楽かなと考えていました。

しかし、いざ担当になってみると毎日餌をたべているか、反芻はしているか、冬だったので寝室の温度(11℃~13℃)は適当かなど色々考えたり、室温と外気温の温度差が多い日など鼻血を出したり、グランドがせまいため突然の雨や強風でキリンが走りまわり転倒しないか、柵に衝突しないかなどひやひやさせられることなど多くありましたが、先輩にアドバイスや、注意をしていただきほっとしたり、又、逆にきつく叱られたりもしました。

あれは1988年5月8日、朝一番にグランドへ放飼したのですが、突然の雨まじりの突風に三頭共がおどろき、ハルミが勢い余って、柵を乗り越えて後肢が柵にひっかかってしまいました。ちょうどプロレスの四の字固めのようになってしまったようで、もう絶対に肢が骨折したものと思ってしまうました。



'91の春、キリン舎は久々の大家族で大賑わい!

この時ロープを体に巻きつけて引っ張っても、動かないし、肢のもつれはとれないし、私自身意識がとんでしまい、どうすればいいのか、わからなくな

り、飼育係、管理係、ボイラー係の皆さんに大変御迷惑をかけてしまいました。幸いにハルミも何度か、体を動かしている間に、後肢のもつれもはずれ、立ち上がることができました。顔や肢の裂傷と右後肢の腫れと少しの跛行はしばらくして無事に完治しました。あの時、本当に目の前が真暗になったことを覚えています。ハルミにとって天と地がひっくりかえった経験をしたことでしょう。

1988年、ナガヤ(5才)サキコ(10才)ハルミ(4才)この頃ハルミには、まだ発情もおとずれていなかったのですが、サキコは、順調に17日間隔で発情も来ており、ナガヤの体格もようやくサキコと同じぐらいに近づいて、サキコの発情が来ると、今まで以上に、マウンティングするようになって頑張っているのですが、なかなか完全な交尾には、いたらなくて、やきもきしていました。当園のキリンも、もう年齢的には繁殖してもいい年齢になってきているので私自身もそう思ったし、まわりもキリンの赤ちゃんの誕生をと考えていたようですが、こればかりはいくらまわりが、騒いでもどうしようもないもので、本当うまくいきませんでした。

ハルミの初めての発情を確認したのは、1989年の4月16日でした。この時も交尾は確認出来ませんでした。次の発情が7月17日と少しの間、期間があったのですが、この時もナガヤのマウンティングは続いたのですが交尾は確認できませんでした。ハルミについては、私も代勤の方もこの後、発情と交尾については、確認していませんでした。(後にお互い見そこねていたことに気づくのですが…)サキコは1988年から1989年にかけて3回交尾を確認し、最終確認は1989年11月30日でした。その後サキコも発情がありませんでしたので、たぶん妊娠したものと考えておりました。

ハルミについては、私達としても全く完全交尾を確認していないし、発情は、こなくなっているし、不思議がっていたのですが、徐々に体の肉づきもよくなって、この年の7月ぐらいから少し腹部も目だつかなと言う感じがしていたのですが乳房も変化ありませんでした。この年の9月より、キリン舎内の改修工事が始まり、3頭共にグランドに放飼したままとりましたが、ハルミは動きまわることが少なくなっていました。そして、少しづつではありますが乳房に変化がみられるようになったのも、この頃ぐらいからでした。

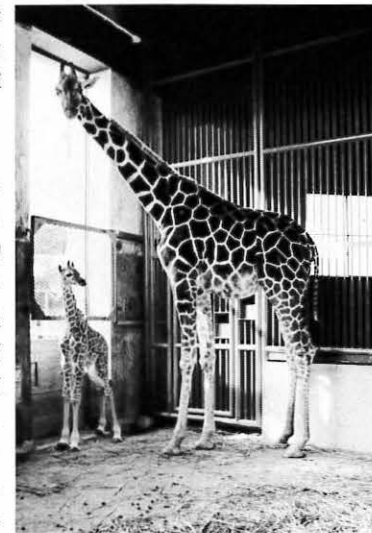
私達は、「交尾の確認の見おとしがあったな」と感じ、私自身初めてだったこともあって、ハルミの妊娠に気づかなかったこと、又、個体によって、か

なきごえ27(10),1991

なりの違いがあったことなど不勉強さを思い知らされました。

キリン舎の工事期間が少し延び、11月までかかってしまったのですが、もうそろそろ出産があってもいい頃であり、乳房も、乳頭も目だつてふくらんで、餌の食いこみも、少し減って来ているなど、やきもきしてはいたんですが工事が終了したその翌日の11月4日朝より雨が降っていましたが、寝室内にて、午前9時55分より破水があり、徐々に前肢、鼻先、頭、肩と出て、11時5分出産しました。出産後、赤ちゃんが立ちやすいようにとワラを入れはじめたのですがかなり近くまでいっても母親のハルミは、私に対して、赤ちゃんを守るための威嚇や攻撃はあまりなく、初産にしては落ち着いているようでした。赤ちゃんは、その後、何回か立とうとしていましたが12時37分に立ち、13時8分に受乳しチューチュー音がしているのを聞いた時にはほっとしました。

ハルミの妊娠期間は、最後に発情を確認した日より計算して475日。赤ちゃんの性別はオスで、身長は約180cmくらいでした。生後3日目に胎便と、ミルク便を確認しましたが私自身ミルクの量がたりているのかどうか



どうかと気親の「ハルミ」と生まれて間もない「リントロウ」にしていたのですが、便を確認した時には、ホッとしました。生後8日目、下痢がとまらず心配もしましたが、10日目より日中の暖い時間に母仔のみグランドに解放するようにすると、下痢も徐々によくなり母乳の力と日光浴と運動で完治したようです。そ後は順調に育っていったわけですが父親のナガヤとの同居等トラブルもありましたが、母仔共に健康でした。

サキコについては、交尾も確認していたので安心してはいましたが、ハルミを観て来た経過もあるので比較的、私自身も気楽にいられました。

サキコの場合、ハルミと違って腹部の張りもよく目だつていたし、乳房も12月頃より目だち始め、か

なりふくらんでくると乳首より乳が少し出ているのも確認してはいました。

サキコの最終発情から計算して、出産予定を2月末から3月の初めぐらいと決めて、少し早いとは思いましたが12月末より、寝室を3つに仕切りナガヤ・ハルミ母仔、そしてサキコの産室として出産準備を始めました。

1991年1月に入るとサキコも動きもにぶくなり、食欲も少し減り始め、時々胎動も確認してはいました。しかし陰部の状態がまだまだ腫れもあさく充血してないようなので、出産は予定通りであろうと判断し、寝室のワラも普段通り入れていたのですが、2月11日午前8時30分に私が出産を確認したわけですが、もう既に赤ちゃんは起立してはいました。まだ体もぬれており、サキコがいていねいに体を舐めていたため、サキコに全てまかせることにし、とにかくワラを多く入れました。サキコは、ハルミと違い産後かなりの間、私に対して威嚇や攻撃もきつく感じました。赤ちゃんの性格もサキコに似て、少しきつく、そして憶病なようでした。

サキコの妊娠期間は、438日で赤ちゃんの性別はオスで身長は170cmくらいで少し小さいようですが、哺乳も確認しましたし、サキコがよく面倒を見ているので安心しました。

サキコ母仔も何ら大きなトラブルもなく今まで健康に育っています。

今回キリンを担当して、初めての出産を経験したわけですが、2例共に初産と言うことと私自身初めての大型獣の出産と言うことでかなり不安な面やとまどい、又、全てが新鮮でした。私自身、観察不足な面や、親子の絆、愛情の深さを再度考えさせられるなど反省すること、考えさせられること、新たな発見など多く学ばせていただけたと思います。

今後も彼らと関わって行く上で多くのことを学ばせていただこうと考えていますし、彼らが今後も健康で、又、多くの赤ちゃんを出産していつくれるように努力していきたいと考えています。

紹介がおくれましたが、ハルミの仔はリントロウ、サキコの仔はコウジロウと言う名前です。

リントロウは、本年7月22日、動物交換で搬出されて現在はいませんが、ナガヤ、ハルミ、そしてサキコ・コウジロウ母仔は元気にはなっています。コウジロウも既に250cmと大きくなっていますが、まだまだ甘えん坊でいたずら仔キリンですが、ナガヤを始めとするキリン一家に私自身関わっていこうと思います。

(飼育課:小谷 信浩)

動物園グラフ

なきごえ27(10),1991



クロオオカミ(チュウゴクオオカミ)
第1次(S49年)、第4次(S56年)動物交流
上海市と友好都市となった時に来園した記念すべき仲間です。



コウノトリ(ニホンコウノトリ)
第3次(S53年)、第5次(S58年)第6次(S62年)動物交流
三回にわたってやって来たコウノトリ。昔は日本でもあちらこちらに住んでいたのに今では動物園でしか見られないよ。

8月の動物園日記

- 8 / 3. ベニイロフラミンゴが1羽孵化しました。アカハシハジロ他4種20羽のカモ類を新しく開園する高知県ののいち動物園に寄贈しました。
- 8 / 4. クビワコガモが1羽孵化しました。
- 8 / 5. アカハシリウキュウガモが1羽孵化しました。ブラッザグェノンの親子(7月31日生)を初めて放飼場に出しました。
- 8 / 6. ガビチョウを自然孵化させるため単独の飼育室に移しました。

“上海の仲間たち”

上海動物園との動物交流の時期になり今年にはヨウスコウワニ(1番)とアネハが仲間入りをします。

そこで今回のグラフは、これまでに上の動物交流でやってきた仲間たちを特集した。(企画 構成:)



ベニジュケイ
第2次(S52年)動物交流
青い顔面にベニ色の体があざやかです。



フランソワルトン
第5次(S58年)動物交流
おとなの毛は黒いけれど赤ちゃんの時はとてもきれいな金色の毛をしているよ。

- 8 / 7. 静岡市日本平動物園の高見獣医師が来園されました。
- 8 / 11. セイランが2羽自然孵化しました。京都市動物園に来園されている朝鮮民主主義人民共和国の平壤動物園長ら一行7名の方々が当園を見学されました。
- 8 / 12. コサギ3羽を奈良市の野鳥の森に寄贈しました。
- 8 / 13. アカダイショウが20匹孵化しました。ヒヨウの親子(5月25日生)を一般公開しました。
- 8 / 15. 米国のリンカーンパーク動物園からシシオザルの繁殖のための国際協力の一環として

なきごえ27(10),1991

ました。ヅル(1番)

海動物園としてみまし 永田 健一)



コジャコウネコ
開園70周年記念(S60年)事業
ジャコウネコは香水の香料となる匂いの強い液を出しますが、このコジャコウネコはどうか?



アオミミキジ
開園70周年記念(S60年)事業
頬の赤い裸出部と嘴から耳にかけての白いヒゲ状の羽と青灰色の体の特徴です。

- 雄1頭、雌4頭が来園しました。
- 8 / 16. 昨日来園したシシオザル4頭(雌1頭は当園で飼育)と当園生まれの2頭を熊本動物園始め国内3園に送りました。
- 8 / 18. 第76回動物のお話とスライドの会は「カバふれ愛ウォッキング」と題しお客さんにカバ舎の中へ入ってもらい実際にカバに触れてもらうなど、新しい試みを行いました。
- 8 / 19. ヒヨウの赤ちゃんに2回目のワクチン接種を行いました。
- 8 / 22. 住吉警察署よりグリーンイグアナの保護預かりがありました。
- 8 / 23. アカハシリウキュウガモが1羽孵化しま



アジアゴールデンキャット
第6次(S62年)動物交流
中型のヤマネコで中国での希少動物。早く2世が出来たらいいのになあ。



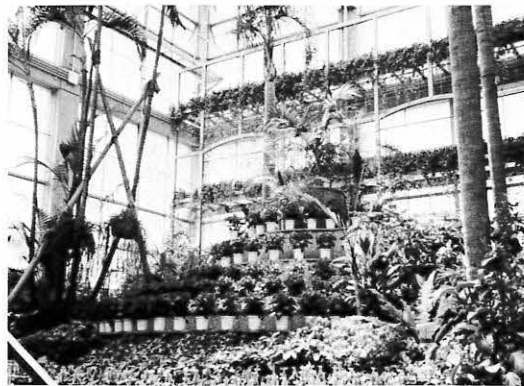
レッサーパンダ
第7次(H元年)動物交流
子供達の人気者。可愛いさはジャイアントパンダにも負けないゾ!!

- した。
- 8 / 25. アカハシリウキュウガモが3羽孵化しました。
- 8 / 27. 河内警察署よりヒヨウモンガメの保護預かりがありました。
- 8 / 31. レッサーパンダの国際血統登録担当者であるオランダ・ロッテルダム動物園のアンジェラ・グラッソン女史が国内血統登録担当者の静岡市日本平動物園の三宅飼育課長と共に来園されました。

“植物温室”

天王寺公園に入園しますと、右には沈床花壇、噴水と、左にはバラのアーチがあり、その向こうに高さ33mの三角屋根の植物温室が、動植物園の特徴的な一画として占めています。この温室は四季を通しての展示飾り付けをしています。ペコニア室は、球根ペコニアを主としながら今は、木立ち性ペコニアが咲き競っております。

ラン室は、カトレア、オンシジウム、ファレノプシス等と岩付けにはネペンシス(うつぼかずら)、アンズリウム、ぶどうに似たぶどうアンズリウムが実を付けております。地下1階には、マニラヤシ6本と回りにセントポーリア等を飾り付け、プランターにはクロトン類を植えています。ソテツ科では、数少ない、約90年ものマクロザミアが鉢植えで展示しています。



この階には高さ約10mの女王ヤシ3本と3mのフラワータワーがあり、噴水花壇には鉢植えの草花類を飾り付けています。また、ペコニア室の球根ペコニアは1回に200鉢を目安に年4回展示を入れ替えています。ラン室では栽培室で開花した物から順次飾り付けています。また、秋にはセントポーリア、ラン展を予定しております。(管理課：山元 貞幸)

“バラのアーチ”



開園より2年目を迎へ現在の天王寺公園は、ハイブリットティー(HT)とフロリーブダ(F)を中心に、211本のツルバラが春と秋に満開の花を咲かせています。ちなみに、211本の内分けはスタンダード仕立て22本、30本のポール仕立てに79本、それと全長100m(これはバラアーチとしては日本一の長さ?)のアーチ仕立て110本です。春は5月の連休明け、

満開のバラを2~3週間たっぷり楽しむ事が出来ます。

秋は10月中旬、花を付けますが、秋の花は春の花に較べて花数は少ないですが、花色、花もちは数段良い様に思われます。ツルバラは、花カス切りと整枝のみにとどめますが、スタンダードは、剪定より45~50日目に開花するので、ツルバラの咲く時期に合せての剪定が必要です。四季咲き性のバラは、温度と条件さえ合えば一年を通して花を付けますが、全ての木に花を咲きそろえるのは春と秋の2回だけです。

バラ作りは、施肥といかに病虫害を出さないかが勝負です。

葉や幹に異状がないか、根廻りはどうか、常に見廻る事が大切な仕事です。

これからも花を一杯につけ皆様に楽しんでいただけたら仕事冥利につきます。

(管理課：浦 隆秀)

§ ブラッサグェノンの出産

7月31日、ブラッサグェノンのオスの赤ちゃんが生まれ、元気に育っています。この両親は、この出産が2回目、前回は1989年11月にオスの子供を生んでいます。オス・メスともに、1981年5月、推定2歳のときに来園し、現在、推定12歳になります。ブラッサグェノン母子



ブラッサグェノンは、4~5歳で性成熟に達します。このサル特有の額にある橙黄色の三角形の毛と顎の白いひげは生れて間もない赤ちゃんにもわずかながらあります。今回の繁殖で4頭の家族になり、この顔の変化を年齢を追って見ていくのもおもしろいものです。

§ 米国からシシオザル5頭のプレゼント

絶滅に瀕するシシオザルの繁殖計画の一環として昨年7月からシカゴ・リンカーンパーク動物園とシシオザル誘致の交渉を重ねてきましたが、それがようやく実を結び、8月15日に5頭のシシオザル(オス1頭、メス4頭)が贈られてきました。この結果、当園では、一時的に14頭のシシオザルを収容することになりましたが、とてもそんなに多くのシシオザルを飼育することはできないため、予定された繁殖計画に従って、熊本、とべ、京都の動物園に貸出される予定です。



なお、メス1頭“ガートルード”(19歳)は、当園で、飼育される予定です。今度来園したシシオザルのメス“ガートルード”

§ ベニイロフラミンゴのふ化

8月号でもフラミンゴの15年ぶりのふ化をお知らせしましたが、残念ながら6月29日ふ化したヨーロッパフラミンゴのヒナは豪雨のため、7月5日に肺炎で死亡してしまいました。その後、待ちに待った2羽目のフラミンゴが

現在の飼育動物数

(平成3年8月31日現在)

哺乳類	12目	94種	445点
鳥類	20目	171種	839点
爬虫類	3目	31種	71点
合計	35目	296種	1355点

1ヵ月遅れの8月2日にふ化し、順調に育っています。今回のものはベニイロフラミンゴで、フラミンゴの今季の繁殖はこれ1羽のみの成育となりそうです。



来年はさらにたくさんヒナが生まれてほしいと願っています。

§ お見合すむキウイ

9月号でもお知らせしましたが、7月16日に来園したメスのキウイ“ブクスイ”は来

園後も元気良好で、当園のオス“キオト”と只今お見合中です。8月中旬からは、2羽のキウイを隔てている間仕切板に



網をとりつけお互いの臭いや音、姿などが十分に認識できるようにしました。現在、見合いの状況を見守っています。キウイ繁殖室内。左、ブクスイ、右、キオトが飼育されている。

● お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
 - 10月20日(日) カンガルーのガイド
 - 11月17日(日) トラのガイド
 - 12月15日(日) 動物園裏側ウォッチング
 - 1月20日(日) サルのお話
- 時間：午後1時~2時
- 場所：ガイドは各獣舎前
- 他はレクチャールーム

● テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレフォンサービスで行っていますのでぜひご利用ください。電話番号 771-9999

*** 休園日のお知らせ ***
 動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。
 開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間はず？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

暮らしとかがいたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むし暮らしと かがいた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの暮らしと かがいた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究者)
- ☆一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作
貸出用「楽しい天王寺動物園」
ビデオ 19分(10本常備)

天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

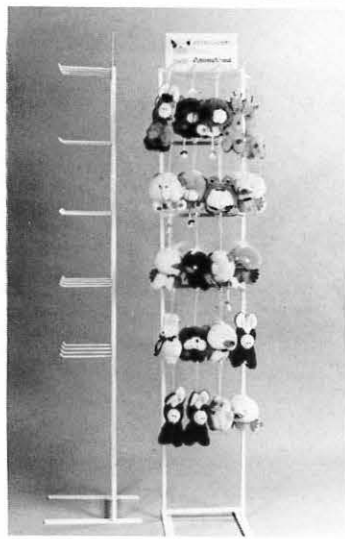
コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー
500円



園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

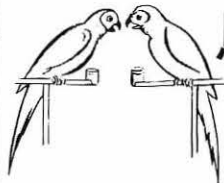


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

—各種ぬいぐるみ企画・製造・卸—

有限会社 **アニメランド**

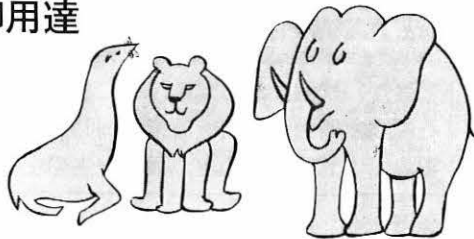
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL : (06) 704-8580
FAX : (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

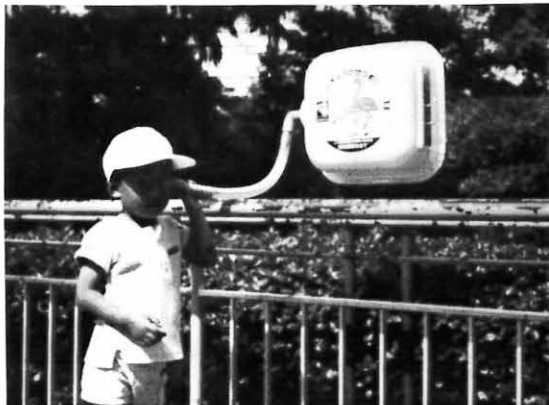


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

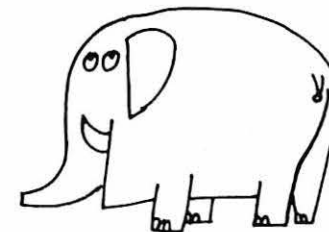
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

唯ちゃんも、
とつてもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー
とつてもゼリー



一日
愉快地
たのしめる



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1991年10月10日発行 (毎月10日発行) 第27巻 第10号 (通巻314号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 土井良彦
印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 3-37823

編集委員 (中山良三郎 / 村上 昭 / 中尾啓一 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 山根和弘 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榎原安昭)
森本委利 / 竹田正人 / 永田健一 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 健 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道 /